

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：34535

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K12197

研究課題名（和文）災害時在宅ハイリスク療養者のセルフケア能力を高める学習プログラムの開発と評価

研究課題名（英文）Development and evaluation of a learning program for disaster preparedness to enhance self-care skills of high-risk patients at home

研究代表者

畑 吉節未（Hata, Kiyomi）

神戸常盤大学・保健科学部・教授

研究者番号：10530305

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：在宅療養者が災害の備えを自分事化して取り組めるように学習プログラムの開発と評価を行った。そのため、療養者を支える訪問看護ステーションの災害看護実践活動や療養者・家族の被災経験の語りをもとに学習プログラムの中核となる学習目標と学習内容の抽出を行った。また、それらの学習目標と学習内容を用いて療養者・家族が訪問看護師とともに学び合える学習方略について検討を行った。さらに、そうした学びを実質化できるように在宅ケアにおける災害への備えの基本的枠組みをモデル化した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域完結型の保健医療システムへのパラダイムシフトが進むなかで、頻発する大規模災害や想定される大規模災害に的確に対応し、在宅療養者の生命を守り、万が一被災しても生活の再構築に向けて療養者・家族が取り組めるように必要な療養者・家族の災害への備えを学ぶ学習プログラムの中核となる学習目標と学習内容を抽出することができた。また、そうした学びを実施化するための基本的な枠組みをモデル化するなど未確立な在宅災害看護学の構築を進めるための貴重な学術的知見を得た。

研究成果の概要（英文）：We developed and evaluated a learning program to enhance self-care skills of high-risk patients at home. For this purpose, we extracted the learning objectives and contents that would be the core of the learning program from both narratives about disaster nursing practical activities of the home visiting nurses and the disaster experiences of the patients and their families. In addition, we examined the learning strategies that enable the patients and their families, the home visiting nurses to learn each other using these learning objectives and contents. Furthermore, we modeled basic frameworks for disaster preparedness for patients and families in home care so that such learning could be put into practice.

研究分野：在宅看護学 災害看護学

キーワード：災害時在宅ハイリスク療養者 セルフケア能力 学習プログラムの開発と評価

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、地震や豪雨災害などの大規模な自然災害が頻発し、人々の生活とそれを支える様々な社会システムに大きな影響を与えている。また、今後、首都直下型地震や南海トラフ巨大地震など未曾有の被害をもたらす大規模災害の発生が危惧されている。こうした災害への備えがなされないままに災害に遭遇すると、揺らぎやすい健康状態にある在宅療養者や、それを支える保健医療システムの継続は危機に直面する。

(2) 現在、在宅ケアニーズに応えるために、団塊の世代が後期高齢者になる 2025 年を目途に、地域包括ケアシステムの構築が進められているが、平時のケアの提供体制の整備が優先され、災害時のケアを盛り込んだシステムの構築の議論はほとんどなされていない。療養者が自主的に生活の持続に必要な物品を備蓄することや、自治体による要支援者リストへの掲載などに留まっている状況にあり、災害を自分事として考え備えを行う段階には至っていない。

(3) 療養者・家族のセルフケア能力を向上させることが、これからの保健医療のあり方の中で「患者の力の向上」として求められている（「保健医療 2035」、厚生労働省 2015）。その一環として療養者と家族が平時、災害時を通して災害時に対処できるよう学び、その力を高める必要がある。もちろん、その学びを支える訪問看護ステーションの学びの深化、学びを生かすことができるケア環境の整備も不可欠であるが、研究開始時はいずれもそうした段階には至っていなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、高まる大規模災害発生の危機に適切に対応し、在宅療養者が可能な限り持続的に在宅看護ケアを受けることができるように、在宅療養者の「セルフケア能力」の向上を図る学習プログラムの開発を行うことにある。

3. 研究の方法

(1) 阪神・淡路大震災、中越・中越沖地震、東日本大震災、熊本地震や大規模な風水害の被災地で活動経験を持つ訪問看護ステーションの管理者、及び被災体験を持つ療養者・家族を対象に災害時の対応についてインタビューを行った。訪問看護ステーションの管理者からは災害時の看護実践活動及び、療養者・家族からは被災後、命の持続を図りながら日常を取り戻す過程での経験についてインタビュー調査を行った。

(2) インタビュー調査で得られた語りを個人が特定できないように加工し、質的な分析を加えデータベースを構築した。また、大規模な被害が想定されている首都直下地震と南海トラフ巨大地震の被災想定地域を対象に実施した全国調査結果によりデータベースの充実を図った。構築したデータベースをもとに在宅療養者・家族の災害時の備えのあり方と必要な学びを考えるための基本的な視点を抽出した。

(3) 得られた視点をもとに、在宅災害看護を考えるための基盤となる基本モデル、療養者を中心とする在宅災害対策を考える基本枠組み、療養者が災害への備えを高めるための学びの内容などを通して、中核となる学修内容の抽出、教授方法の工夫等の学習方略につ

いて段階的に検討を行った。学習プログラムの中核となる学習内容の抽出にはインストラクショナル・デザイン(Ganie 1985 ら)を用いた。

(4)本研究の実施にあたっては所属である神戸常盤大学研究倫理委員会の承認を得た。

4. 研究成果

(1) 在宅災害看護を考えるための基盤となる基本モデルの検討

はじめに、災害時の一連の看護実践をもとに災害看護実践行動モデルの抽出し、在宅ケアシステムにおける「自助」「互助」「共助」「公助」を枠組みに分析を行った。

内閣府は「自助」「共助」「公助」の枠組みをもとに災害の備えや災害時の対処行動を考える。その一方で、本研究が対象とする在宅ケアシステムは「自助」「互助」「共助」「公助」の柱立てのもとにサービスの提供をデザインする。現状では地域ケアシステムにおいて災害は具体的に位置づけられていない。内閣府と厚生労働省との役割分担の結果を反映しているためか、地域包括ケアシステムのなかに災害対策は明確に位置づけられていない。災害に関して在宅ケアに従事する専門職、自治体に共通する言語を生み出し、行動につなぐためには、在宅ケアの基本的な視点である 4 つの分類のもとで災害を捉え直すことが不可欠となる。

語りのデータベースから抽出した災害看護実践行動をもとに、在宅災害看護を考えるための基盤となる基本モデルを考えるために、抽出した実践例を分類整理した。例えば、専門職の推論力を効果的に活用して災害時の迅速・効果的な活動を展開するモデル、療養者・家族が中心の自立型モデル、訪問看護ステーションが自主的に個々の療養者・家族の備えを支えるインフォーマルな支援モデル、地域内外のステーションが相互の支援力を強化するモデル、保健所が中心となり具体的なケアに近隣住民を巻き込み支援者の力を強化するモデルなどを抽出することができた。これらの取組モデルをステークホルダーの協働を視点に、「自助」「互助」「共助」「公助」の 4 つの柱立てをもとに作成した枠組み上にプロットした。図 1 は、これのいくつかを例示したものである(図 1)。

これを見ると、それぞれの柱立てが重なり合う領域での活動が見受けられ、在宅ケアの領域においては「自助」「互助」「共助」「公助」の視点の理解は、役割分担のための枠組みとするよりはむしろ、災害時にそれぞれの強みを生かし療養者の医療・生活を「自助」「互助」「共助」「公助」により持続させるための協働のあり方を示す枠組みとして理解することができる。

そのなかで、防災対策として進められている災害時要援護者に対する避難行動支援者名簿の作成は、それだけでは在宅ケアを活用する療養者にとって、「共助」の領域での十分な配慮までに至っておらず、備えの自分事化を進めるためにも在宅ケアに関わる医療職などの専門職を巻き込む必要が

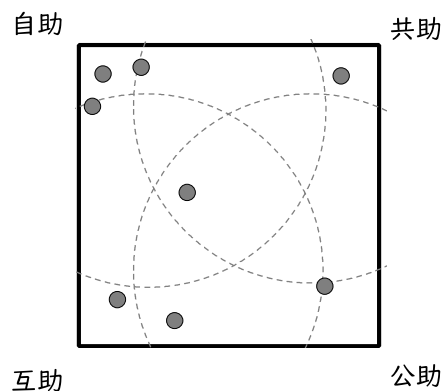


図 1 自助・互助・共助・公助マップ

あることが示唆された。

(2) 療養者を中心とする在宅災害対策を考える基本枠組みの検討

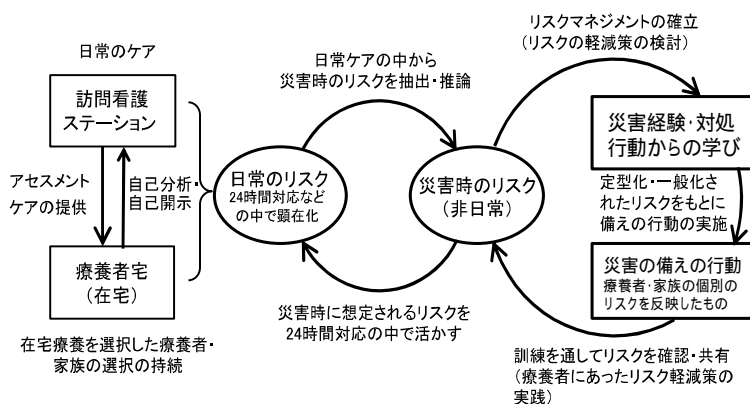
得られた基本モデルを療養者中心の具体的な行動レベルに高めるために、平時と非日常とをリスクベースで考える在宅災害看護の基本モデルの検討、災害対策を支える多様なステークホルダーとの動的な関係性の構築、療養者を医療・生活の両側面から支援し、療養者・家族の備えを支援する訪問看護ステーション/スタッフのために求められる災害対策の学びの中核となる学習目標をインストラクショナル・デザインにより具体化した。

基本モデルで見たように災害の備えには多様な主体の関わりが必要である。そうした体制を確立するには療養者・家族の主体的な取組が重要となる。個々に異なる病いの状況や生活史などを踏まえると、画一的な備えや災害時の対応を適用することは難しく、療養者・家族の主体性を尊重した取組をデザインする必要がある。訪問看護ステーションをはじめとする支援者との相互関係を築くためには、共通言語が求められる。キーワードは“リスク”、“他者の経験からの学び”である。

この枠組みは自らのリスクと、災害時の他者の経験から見た学びをもとに、訪問看護ステーションと療養者・家族とが学び合うことを前提としている(図2)。日常から療養者が持つリスクはさまざまであり、災害時にはそうしたリスクが顕著化する。また、災害時には平時にはないリスクが生じる。これらを捉えることが備えや必要な対応を可能にする。個別性の高い療養者にとっての備えは、画一的な枠組みを当てはめるだけでは十分ではないだけに、他者の経験をもとに学ぶことが災害への備えの自分事化につながるものとする。

訪問看護ステーションが必要な支援を行うための学びについては、3つの大目標とそのもとに8つの学習目標を抽出した。

「療養者・家族の個別性に対応するための備え」では療養者・家族のリスクを平時からアセスメントし備えを計画すること、「システムとして対応するための備え」では、中長期に及ぶ生活の再構築をめざした安否確認等の一連の支援を備えること、「支援者の継続的な能力形成とストレスへの対応のための備え」では、自己及び他者のリスクマネジメントや災害経験からの学びの継続など、具体的な実践活動にもとづく学習内容である。いずれの視点も図2に示す「災害の備えのための平時と災害時のリスクの循環モデル」の強化に資する学習目標である。ただ、これらの学習目標は訪問看護ステーションを中心としたものであり、療養



出典)畑吉節未(2018):「在宅療養者・家族を中心とした災害への備えのデザイン」、コミュニティケア、20(3)、pp.65-69。(図はp.68)

図2 日常のリスクを災害の備えの行動につなぐ循環モデル

者・家族を巻き込み、学びを深め合うためには、療養者の災害経験を理解する必要性に加え、現行の介護/医療保険制度のなかで療養者・家族に働きかける難しさが課題として残った。

(3)療養者が災害への備えを高めるための学びの内容についての検討

療養者・家族が災害を自分事として捉え、備えの行動ができるように、療養者・家族のための学習プログラムの視点を抽出するとともに、それらを、被災体験のみならず療養者・家族の「病みの軌跡」(Cohbin, Strauss 1994)と結びつけて理解し、健康の揺らぎの全体像のなかで制御することに焦点を当て検討を行った。

療養者が災害への備えを高めるために、阪神・淡路大震災で被災した療養者家族 A 氏の療養生活に関する省察的な語りの質的分析をもとに学習目標を抽出した。得られた学習目標は、療養者・家族にとって他者の災害経験から学び、自らを守る計画を理解する重要性、備えのデザインの目標を「生活の再構築」に設定する必要性、在宅療養者・家族に求められるセルフケアのあり方の理解、他者を巻き込み構築するシステムの意義と課題の理解、備えを自分事にするための仕組みづくりの有用性の理解、療養者と家族がともに復興をめざせる環境づくりの必要性の理解などである。これらの学習目標を既に抽出した訪問看護ステーションの学習目標により内容分析したところ、両者は概ねオーバーラップし、訪問看護ステーションと療養者・家族との学び合いを前提とした災害への備えのデザインの可能性を示すことができた。すなわち、療養者・家族の備えを促進するためには、チェックリストや個別対応策に留まらず、中長期に及ぶ生活復興に至るまでを理解し、療養者・家族に寄り添う訪問看護ステーションによる備えの学習プログラムを提供することの重要性が示唆された。

ただ、学習プログラムの実装には療養者・家族が個々の学習目標を断片的に捉えず統合的に理解できるような工夫が必要である。災害への備えを他の療養者・家族の病みの軌跡の全体像のなかで理解し、自分事化できる視点の検討を行った。結果、療養者の主体的な生活の場での生活史を踏まえたケアの原点から必要な備えを模索することの重要性を確認することができた。「命の危機のコントロール」「ケアの焦点」「支援者との関係性」をキーワードに、平時と非日常とをつなぎ、療養者・家族が経験した「病みの軌跡」を、自らの災害を含めた新たな軌跡に重ね合わせながら理解することの効果性、学習方略の可能性が示唆された。なお、「互助」の主体である患者団体や療養者支援団体がステークホルダーとして果たす役割の重要性が浮かび上がった。現状では、訪問看護ステーションと患者団体などの関係性は希薄であり、協働した取組みを進めるために関係性を深めることの重要性が示唆された。

(4)まとめ：療養者・家族の災害への備えは、平時から個々の療養者の状況を踏まえて進めることが重要である。そのため、本研究では在宅ケアシステムの4つの柱立てのもとに災害時及び備えの活動をとらえる基本モデルによりこれまでの実践活動を分析するとともに、平時/災害時のリスクをもとに備えの行動を具体化するための基本枠組みを明らかにした。

また、これらを基盤の上で他者の災害経験を生かす学習目標の抽出と療養者・家族に適した学習方略を得ることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 松原渉, 畑吉節未	4. 巻 13
2. 論文標題 言葉の暴力を受けた精神科看護師の感情体験と対応に関する文献レビュー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神戸常盤大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20608/00001091	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 畑吉節未	4. 巻 -
2. 論文標題 在宅での災害への備えのデザイン	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 内閣府「TEAM」リレー寄稿	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 畑正夫, 村山史世, 石井雅章, 長岡素彦, 滝口直樹	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 SDGs レンズで見る転換期の地域開発政策の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 計画行政	6. 最初と最後の頁 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 畑正夫	4. 巻 -
2. 論文標題 共生社会の実現に向けた地域をベースとする学びの場の形成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本共生学会第12回オンライン大会発表予稿集	6. 最初と最後の頁 9-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 畑吉節未, 畑正夫	4. 巻 46
2. 論文標題 災害への備えの充実・強化を図る上で訪問看護ステーションが直面する課題の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 癌と化学療法	6. 最初と最後の頁 129-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鶴飼知鶴, 畑吉節未	4. 巻 46
2. 論文標題 地域医療連携室での学習成果	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 癌と化学療法	6. 最初と最後の頁 69-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 畑正夫, 村山史世, 石井雅章, 長岡素彦, 滝口直樹	4. 巻 42(1)
2. 論文標題 地方自治体政策へのSDGsの実装に向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 計画行政	6. 最初と最後の頁 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 畑正夫, 長岡素彦	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 大学が地域課題を学ぶ意義を問い直す	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関係性の教育学	6. 最初と最後の頁 39-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 畑吉節未	4. 巻 67
2. 論文標題 POCTを活用した在宅ケアの展望：在宅看護の視座から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床病理	6. 最初と最後の頁 382-389
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴飼知鶴、畑吉節未	4. 巻 49
2. 論文標題 地域連携室における指導者の学習支援の特徴	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本看護学会論文集 (在宅看護)	6. 最初と最後の頁 27-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 畑吉節未	4. 巻 11
2. 論文標題 災害看護実践行動の検討-災害医療経験を持つ医師の語りから-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸常盤大学紀要	6. 最初と最後の頁 45-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20608/00000959	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 畑吉節未、畑正夫	4. 巻 45(1)
2. 論文標題 在宅療養者のための公助、自助、共助のバランスのとれた災害の備え	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 癌と化学療法	6. 最初と最後の頁 65-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井佳代、伊藤美江子、畑吉節未	4. 巻 45(1)
2. 論文標題 在宅療養者の自助力を高め災害に備える訓練のデザインと成果の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 癌と化学療法	6. 最初と最後の頁 69-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 畑吉節未	4. 巻 20(3)
2. 論文標題 経験・教訓から考える 在宅ケアの場での災害への備え	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 コミュニティケア	6. 最初と最後の頁 65-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 畑吉節未	4. 巻 23(11)
2. 論文標題 在宅療養者のセルフケアを重視した災害への備えの検討 - 訪問看護ステーションへの実態調査から -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 難病と在宅ケア	6. 最初と最後の頁 30-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 畑吉節未	4. 巻 19(13)
2. 論文標題 大規模災害の想定地域を対象とした訪問看護ステーションの備えの実態と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 コミュニティケア	6. 最初と最後の頁 130-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴飼知鶴, 畑吉節未	4. 巻 47
2. 論文標題 療養通所介護における多職種からみた看護実践の成果	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本看護学会(在宅看護)	6. 最初と最後の頁 15-18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計53件(うち招待講演 5件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症拡大期における訪問看護ステーションの活動と検査ニーズ
3. 学会等名 第67回日本臨床検査医学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 在宅ALS療養者と家族の生活観に寄り添う災害支援と備えのデザインに向けて
3. 学会等名 第25回日本難病看護学会第8回日本難病医療ネットワーク学会合同学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 訪問看護ステーション管理者がとらえた新型コロナウイルス感染症拡大期の対応からの気づき
3. 学会等名 第10回日本在宅看護学会 学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 訪問看護ステーション管理者がとらえた新型コロナウイルス感染症拡大期における事業継続上の不安と困難、対応
3. 学会等名 第24回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 病院と在宅をシームレスにつなぐ連携の構築に向けて - 病院スタッフの退院患者宅への訪問経験のリフレクション -
3. 学会等名 第24回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 在宅療養者の視点を踏まえた災害看護教育プログラムの学習目標の抽出
3. 学会等名 日本看護学教育学会第30回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村山史世・滝口直樹・石井雅章・長岡素彦・畑正夫
2. 発表標題 シンポジウム「今後の社会と共生－SDGs・ESD」
3. 学会等名 日本共生科学会第12回オンライン大会発表予稿集
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 地域完結型の保健医療システム下での在宅災害看護の構築に関する研究
3. 学会等名 第2回日本在宅医療連合学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 畑正夫
2. 発表標題 持続可能な地域づくりのための戦略的コラボレーションの構築
3. 学会等名 日本地方自治研究学会第37回オンライン全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 畑正夫
2. 発表標題 持続可能な地域づくりのためのビジョンとトランジションマネジメント：「21世紀兵庫長期ビジョン」の20年間の取組をもとに
3. 学会等名 日本計画行政学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長岡素彦・石井雅章・畑正夫・村山史世
2. 発表標題 持続可能な地域づくり計画の検討：トランジションマネジメントを導入した計画づくりの第1歩
3. 学会等名 日本計画行政学会・全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 畑正夫
2. 発表標題 中山間地の小都市がデジタルトランスフォーメーションでめざすもの：兵庫県養父市の事例をもとに
3. 学会等名 日本都市学会第67回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 畑正夫
2. 発表標題 コロナ禍で進む地方都市のDX、シビックテックへの期待
3. 学会等名 Code for Japan summit 2020 : Beyond コロナとSDGs・DX- SDGsとシビックテック
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 畑正夫
2. 発表標題 Value For Time 自由時間を延ばすことにインセンティブをもたす政策の影響
3. 学会等名 国際公共経済学会第35回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 病院と在宅を効果的に結ぶ「出会い」の検討ー在宅訪問経験を持つ病院スタッフの振り返りからー
3. 学会等名 第9回日本在宅看護学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 訪問看護ステーションの災害への備えを強化する教育プログラムの開発- インストラクショナル・デザインを適用した学習目標の抽出
3. 学会等名 第2回日本在宅医療連合学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 大規模災害経験の省察に基づく 訪問看護ステーションの備えの行動の変容
3. 学会等名 第24回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 療養者・家族に寄り添う災害への備えのデザイン
3. 学会等名 第24回日本在宅ケア学会シンポジウム シンポジスト（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑正夫
2. 発表標題 地域のアンラーニングを促進する大学の地域学修のあり方の検討- ;大学・学生の孤立・地域の孤立を超えて
3. 学会等名 第25回京都大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑正夫
2. 発表標題 SDGsリテラシーを育む学びのシステム
3. 学会等名 日本社会情報学会社員総会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑正夫
2. 発表標題 地域との学び合いに求められるアンラーニングー大学の地域学修が求められるなかでー
3. 学会等名 関係性の教育学会第17回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑正夫
2. 発表標題 「カヤノキさん」と集落の暮らしー共生社会にふさわしい地域開発のあり方の検討に向けてー
3. 学会等名 日本共生科学会第11回相模原大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑正夫
2. 発表標題 「共生」の力で「自治」を問い直す
3. 学会等名 日本共生科学会第11回相模原大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑正夫
2. 発表標題 SDGsレンズを通して見るべきもの
3. 学会等名 第33回自治体学会堺大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑正夫
2. 発表標題 都道府県議会の政策議論にみる「持続可能な開発」のローカライズの現状
3. 学会等名 日本計画行政学会第42回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑正夫, 長岡素彦, 滝口直樹, 村山史世, 石井雅章
2. 発表標題 50. SDGs レンズで見る転換期の地域開発政策の検討
3. 学会等名 日本計画行政学会第42回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑正夫
2. 発表標題 地方創生戦略のあり方の検討：地域を持続可能にする生涯学習への期待
3. 学会等名 第36回日本地方自治研究学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑正夫
2. 発表標題 地域資源を活用した地域づくりとSDGsの接点の探究：いなみ野ため池ミュージアムを事例に
3. 学会等名 日本都市学会第66回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 療養者・家族を中心とした災害の備えのデザイン
3. 学会等名 第24回日本在宅ケア学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 大規模災害経験の省察に基づく訪問看護ステーションの備えの行動の変容
3. 学会等名 第24回日本在宅ケア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 訪問看護ステーションの災害への備えを強化する教育プログラムの開発：インストラクショナル・デザインを適用した学習目標の抽出
3. 学会等名 第1回日本在宅医療連合学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 在宅の特性を踏まえ訪問看護ステーションの災害の備えをデザインする
3. 学会等名 笹川記念保健協力財団 看護研修会in東京 在宅看護と災害（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 災害の基礎知識と多職種連携による災害時の備え
3. 学会等名 大阪市保健所主催招致講演：「医療的ケアが必要なこどもの在宅療養支援 における災害時の備えと多職種連携（招待講演）」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 安否確認に焦点を当てた災害模擬訓練に参加した訪問看護師の学び
3. 学会等名 第8回日本在宅看護学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 訪問看護師から見た在宅臨床検査
3. 学会等名 第65回日本臨床検査医学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 災害への備えの充実・強化を図る上で訪問看護ステーションが直面する課題の検討
3. 学会等名 第29回日本在宅医療学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 被災者の尊厳を守る看護実践行動：死者と遺族へのケアを通して
3. 学会等名 日本災害看護学会第20回年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 在宅療養者の災害の備えにおける患者団体・療養者支援団体への期待と実際
3. 学会等名 第23回日本難病看護学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 訪問看護ステーションにおける災害への備えの現状と今後の備えの必要性の認識
3. 学会等名 第23回日本在宅ケア学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鶴飼知鶴、畑吉節未
2. 発表標題 地域連携室における指導者の学習支援の特徴
3. 学会等名 日本看護学会学術集会-在宅看護
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鶴飼知鶴、畑吉節未
2. 発表標題 地域連携室での学修成果
3. 学会等名 第29回日本在宅医療学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 多様なステークホルダーを巻き込み災害の備えを進める上での課題 - 訪問看護ステーションを対象にした調査から -
3. 学会等名 日本在宅医学学会第20回記念大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 在宅療養者の災害における患者団体・療養者支援団体への期待と実際
3. 学会等名 第23回日本難病看護学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 訪問看護ステーションにおける災害への備えの現状と今後の備えの必要性の認識
3. 学会等名 第23回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 綾部貴子、松井妙子、宮武伸行、畑吉節未
2. 発表標題 介護支援専門員の職業的アイデンティティに関する研究
3. 学会等名 第60回日本老年社会科学学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 在宅療養者の自助の力を高める災害の備えの訓練のデザインと成果の検討 ー療養者・家族とともに進めた4年間の防災訓練の振り返りー
3. 学会等名 第7回日本在宅看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井佳代、伊藤美江子、畑吉節未
2. 発表標題 在宅療養者が災害時に自ら命を守るための備えのサポート - 防災マニュアルの作成と訓練の実際
3. 学会等名 第7回日本在宅看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 在宅療養者のための自助、公助、共助のバランスの取れた災害の備え
3. 学会等名 第28回日本在宅医療学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白井佳代、伊藤美江子、畑吉節未
2. 発表標題 在宅療養者が自助力を高める災害への備えの訓練のデザインと成果の検討
3. 学会等名 第28回日本在宅医療学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 在宅療養者のセルフケアを重視した災害への備えの検討
3. 学会等名 第22回日本難病看護学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 大規模災害が想定される地域における訪問看護ステーションの備えの現状（第一報）
3. 学会等名 第22回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 居宅介護・訪問看護・訪問介護のトランスディシプリナリーアプローチに関する研究 - 職業的アイデンティティとの関連
3. 学会等名 第22回日本在宅ケア学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 畑吉節未
2. 発表標題 介護支援専門員によるトランスディシプリナリーアプローチ展開上の仕事の環境に関する現状分析
3. 学会等名 第16回日本ケアマネジメント学会学術集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 畑吉節未 全般監修	4. 発行年 2020年
2. 出版社 特定非営利活動法人 ALDの未来を考える会	5. 総ページ数 38
3. 書名 災害対策ハンドブック - 医療的ケアが必要な方のために -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	畑 正夫 (Hata Masao) (40596045)	兵庫県立大学・地域創造機構・教授 (24506)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------